

# 週報

2026年度 教会標語

「神様に“望み”を持って、生きる！」

&lt;先週の説教から&gt;

『ルカ76 — 自分の十字架を背負って生きる』

武田真治 牧師

エゼキエル 2:1~8 ルカ福音書 9:21~24

今日の聖書の箇所は「イエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じて」おられます。その際の「このこと」とは何を指すのかと言えば、直前の出来事でした。それは、イエス様が『あなたがたはわたしを何者だと言うのか』と問われて、それに答えてペトロが代表して『神からのメシアです』と正しく答えました。そのこと自体は何の問題はないのですが、イエス様が危惧されたのは、当時のユダヤの人たちの大部分が“メシア”という言葉に特別に強い思い入れがあったからでした。それは、旧約のダビデ王やソロモン王のように民を導いてローマ帝国の圧政から独立させてくれる指導者こそを“メシア”だと思い込んでいたのです。故に、イエス様は今、自分がメシアだということが広まると人々に大きな誤解を与えてしまうことを懸念されたのです。故に、今日の箇所、弟子たちに続けて「次のように言われた。『人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。』とこれからのイエス様の道行きについて明かされたのです。これは、世の中の人々が考えているメシアではなく、本当の“メシア”がどのような存在なのかを教えられた言葉なのです。そして、その上で「イエスは皆に言われた。『わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。』」と教えられたのです。従って、イエス様の後を歩いて行こうと願う者は、イエス様と同じように「苦しみを受け、排斥され、殺される」ことになるかもしれないことを覚悟する必要があると教えられた言葉だと言い得るのです。

ただし、間違っではいけないことは、イエス様は弟子たちに『私の十字架を背負え』と言われておられるのではないという点です。むしろ『自分の十字架を背負って』と言われておられるのです。弟子たちにも十字架の片棒を担げとは言われて

いない。言い換えるならば、イエス様はご自分に与えられた十字架を自分一人で背負われるのであって、弟子達には弟子達ひとり一人に各々の十字架が与えられているから、その各々の十字架を背負って生きる事が『わたしに従う』ことになるのだと言われているのです。これはイエス様が「皆に言われた」言葉なので、私たちひとり一人にも告げられている教えでもあるのです。考えてみれば、私たちにイエス様の十字架を担ぐことなんてとても出来ないのではないのでしょうか。むしろ、イエス様に従って生きる時に、各々が経験する迫害や苦しさ等を“十字架”と言われているのでしょうか。それらを受け止め、自分に与えられた課題や試練として担っていくことがイエス様に従うことと通じる、同じであると思ってください。

実は、この言葉があったからこそ、弟子たちはイエス様の後を追って死ぬ（＝殉葬）ことをしなかったのです。この後に自分達が十字架を担ぐ時が来るのだと分かっていたからです。

\*\*\*\*\*

## 【今週の集会】

\*聖書研究・祈禱会 5月27日(水)・28日(木) 休会

## 【教勢報告】

主日礼拝 男15 女52 計67

祈禱会 I. 男3 女1 計4 II. 男1 女5 計6

日曜学校 幼稚科3 小中科9 計12

ハンナの会 &lt;5月19日(火)&gt; 男2 女7 計9

## 【次週礼拝】 5月31日(日)

聖書：詩編 61:1~9

ローマの信徒への手紙 7:19~25

説教：「詩編61—そびえる岩山に導いてください」

武田真治 牧師

讚美歌：51(1)、32、351、151、474、

## 【次週当番表】 24(1)

司式：AS長老 奏楽：SY 礼拝：HN長老

献金：SC ST 受付：OK HI

会堂準備：IN IY IA IK

看板：II 週報：YS お花：

## 【次週集会予定】

礼拝前：・日曜学校礼拝 ・聖書輪読会 ・はこぶねルーム

礼拝後：・お茶の会 ・牧師と語る会

・聖歌隊練習

2026年 5月 24日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&amp;FAX 048-771-6549